

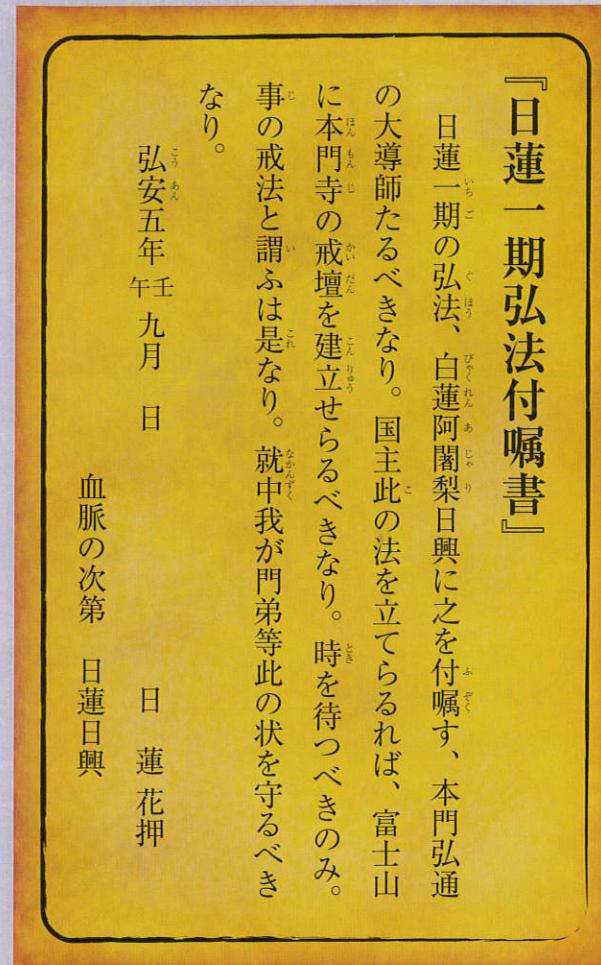
創価学会の誤り

現在、創価学会では、さかんに「大聖人直結」「御書根本」を主張していますが、これらは唯授一人の血脉を否定するための、まやかしの理屈に過ぎません。それはまた、池田大作の自語相違でもあります。

さらに、血脉付法の御法主上人に対し、誹謗中傷を繰り返す創価学会の行為は、三宝破壊の大罪となり、その罪は計り知れません。

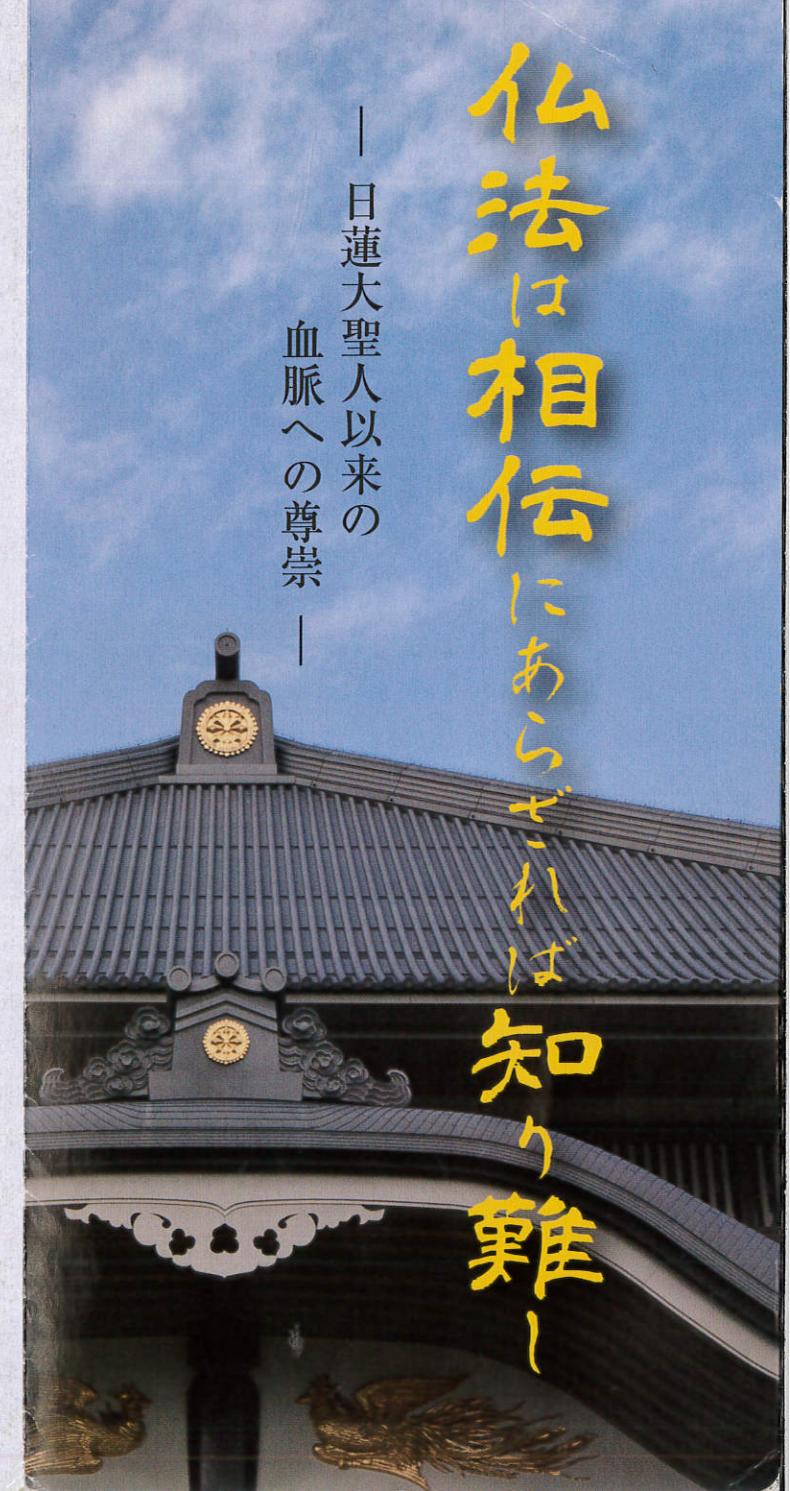
このような創価学会に籍を置く限り、「謗法与同罪」といって、大謗法の罪の報いを必ず受けてしまうのです。

誰もが自身や家族の幸せを願っているはずです。どうか一日も早く創価学会を脱会し、日蓮大聖人以来の正しい血脉法水の流れる日蓮正宗に帰依し、成仏の直道を共に歩んでいきましょう！



大日蓮出版

[1] H23.4



— 日蓮大聖人以来の
血脉への尊崇 —

唯授一人の血脉相承

ごにゆうめつ こうけいしゃ せんてい
日蓮大聖人は御入滅に先立ち、後継者として第二祖日興上人お一人を選定し、
かいてん ふぞく ゆいじゅ
本門戒壇の大御本尊をはじめとする仏法の一切を付嘱されました。これを「唯授
いちにん けちみやくそうじょう いらい
一人の血脉相承」といいます。以来、この相承は、第三祖日目上人、第四世日道
じれきだい ふぞく ゆいじゅ
上人へと伝えられ、御歴代上人を経て、現御法主・第六十八世日如上人に受け
つ 繙がれています。

相伝にあらざれば知り難し

そうでん こしお たもむ
日蓮大聖人は、相伝の大事について、「此の経は相伝に有らざれば知り難し」(『一代聖教大意』御書 92 ページ)
ごきょうじ たつちゅう
と御教示され、この御文について総本山第二十六世日寛上人は、「宗祖の云わく『此の経は相伝に非ずんば知り難し』等云々。『塔中及び蓮・
興・目』等云々」(『撰時抄愚記』文段 337 ページ)

と述べられています。

つまり、日蓮大聖人の仏法の深意は、第二祖日興上人、第三祖日目上人以来の相伝によってのみ知ることができ、ここに仏法の功徳が流れることを教えられているのです。

血脉を所持される御法主上人への信順

かつて、池田大作(創価学会名誉会長)は、次のように指導していました。

みのぶは
日蓮宗身延派にあっても、南無妙法蓮華経の題目を唱えている。御書もある(中略)外見から見ればわれわれと同じようにみえるが、それには唯授一人・法水写瓶の血脉がない。法水写瓶の血脉相承にのっとった信心でなければ、いかなる御本尊を持つも無益であり、功徳はないのである
(『広布と人生を語る』8-228 ページ)

このように、いくら御書があり、題目を唱えても、唯授一人の血脉を所持される御法主上人への信順がなければ、その功徳は流れ通わないのです。